

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

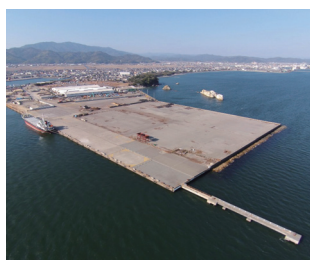
原稿を書いている今は、梅雨の最中、ずっとジメジメとした日が続いています。皆さま、如何お過ごしでしょうか。(お手元に届く頃には、夏空が広がっていればいいなと思いながら)あわみなと通信の夏号をお届けします。今号は、当事務所が行っている広報活動、地域の皆さまとの取組みといったことを中心に誌面構成をしております。

さて、当事務所では小松島港区の本港、金磯地区において老朽化した岸壁の大規模修繕を行っているところです。いずれも近代港湾としての小松島を当初から支え続けてきた基幹施設であり、まだまだ現役の大水深岸壁なのですが、一方で、荷役については安全面から利用が制限されています。

施設を利用する皆さまからは、できるだけ早く修繕を完了して再度利用ができる状態に戻してほしいとの要望を受けており、施工手順を工夫しながら鋭意修繕工事を進めているところです。現地工事が進んでいる金磯地区は、20ブロック(幅方向に2列、延長方向に10列)の栈橋式岸壁ですが、まずは海側10ブロックの工事を集中的に進めることで、一定利用ができるにします。次いで本港地区は、利用制限の原因となっている老朽化の激しい上部工部分をプレキャスト部材化して修繕することで利用制限を解消した後、一定利用をしながら岸壁全体の工事に入るという2段階施工を予定しており、本年度設計等の検討をしています。

これに限らず当事務所では、地域のニーズをよくお聞きし、技術的な工夫を凝らしてそれにお応えし、また、必要なご協力もいただきながら事業を進めて参りたいと思っています。

令和元年7月16日 小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸



金磯地区岸壁

夏だ！祭りだ！船に乗ろう！

7月13日、徳島小松島港本港地区にて、小松島港まつり協賛行事として、当事務所所有の港湾業務艇「ひのみね」に乗って、一般の方々が徳島小松島港を探検する「みなと見学会」と、海をきれいにする船の船内見学「海面清掃兼油回収船みずきの一般公開」を行いました。

当日は雨がぱらつくあいにくの雨でしたが、みなと見学会は受付開始早々に定員に達したため、急遽臨時便を出して対応し、大変喜んでいただきました。また、みずきの船内では、たくさんの方々がゴミを回収する機械や操舵室内を興味深そうに見学しておりました。

なお、乗船後のアンケートでは、「普段海上からの見学ができないのでいい経験ができた。」「いつも海の安全を守ってくれてありがとう」等のご意見をいただきました。

これからも、このような機会を設けることで、広く地域の皆様に、港を身近に感じていただく取り組みを推進して参ります。



「ひのみね」に乗って出発

みずき船内操舵室
船長気分を体験中ゴミ回収作業の
デモンストレーション